



特定非営利活動法人

アジア太平洋資料センター (PARC)

2012 年度 活動報告書

もくじ

【全体的な活動報告】

| | |
|------------------|---|
| 2012 年度を振り返って | 1 |
| STOP!! TPP の取り組み | 2 |
| ブラック企業大賞 | 5 |
| 水映画祭 | 7 |

【各部門の報告】

| | |
|------------------|----|
| PARC 自由学校 | 8 |
| オーディオ・ビジュアル (AV) | 11 |
| 雑誌『オルタ』 | 13 |
| 情報発信 (ウェブ、SNS) | 14 |
| 組 織 | 15 |
| 活動カレンダー | 16 |

2012 年度をふりかえって

大企業優先の新自由主義への批判と 脱成長・脱原発社会をめざして



2012 年度は、「日本社会がさらに悪い方へ進んでしまった」と、多くの人々が実感した年だったといえます。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から 2 年目の年、復興に向けての政府の取り組みは不十分であり、いまだに多くの被災者が仕事や家を失った状態に置きとどめられています。また福島第一原発事故の収束は今も目途が立たず、放射能汚染問題も深刻な課題として残っています。何よりも、福島県で暮らす人たちの間では「避難するかどうか」「除染」「農業」「仕事」などさまざまな困難への対応・判断が各自に任せられる状態で、住民の間には深刻な対立や分断も生じています。

一方、原発のない社会をめざす大きな運動のうねりが生まれたのも 2012 年でした。7 月の首相官邸前における 10 万人規模の脱原発行動は、いまま引き続き行われ、その動きは各地へと広がりました。全国 150 か所にも及ぶ地域で同様の脱原発行動が次々と生まれたことは希望の持てる動きでした。また世論の圧倒的多数も「脱原発」を望みました。しかし、にもかかわらず、先の民主党政権は大飯原発の再稼働を決定、原発問題はもちろん、民主主義そのものが否定されるという危機感を多くの人たちが持つことになりました。

さらに、2012 年 12 月衆院選での自民党勝利による政権交代を経て、安倍首相は 2013 年 3 月 15 日、TPP（環太平洋戦略的パートナーシップ協定）の交渉参加を表明しました。各分野からの大きな反対・懸念の声を裏切り、また公約を裏切る形での参加表明に、私たちは激しく怒りの声を上げました。

米軍が沖縄にオスプレイ配備も行ない、米国との

軍事・経済の一体化はさらに強化されるという現実も突きつけられています。

まさに、世界中に広がる新自由主義の嵐の中に、日本はさらに一步、大きく舵を切ってしまった年として、また震災と原発事故で多くの被災者・犠牲者を出しておきながら、自らの意志で原発を止めることができなかった年として、悔しく、憤ることが多かった年でした。

そのような中で、PARC は喫緊の課題に直面しながら、考えながら動き、動きながら考えるということを繰り返しながらさまざまな運動・活動を担ってきました。TPP 反対運動のように幅広いネットワークを形成し、デモや集会、議員へのロビイング、政府への情報公開請求を行なうことも多々ありました。また AV 部門の作品として原発や TPP 問題を発信したり、PARC 自由学校で多くの人たちと学びの場をつくるという活動も日常的に行なってきました。

絶望する状況にあっても、「脱成長」「持続可能な社会づくり」などのオルタナティブな実践の芽は私たちの身近に多く生まれています。その可能性をさらに実体化し、社会へ提案していく取り組みも十分ではありませんが、意識的に行なってきました。

こうした活動を進める上での課題も多くありますが、会員の皆さんと一緒に、悪化した事態を少しでも改善できるように取り組みたいと考えます。危機的状況だからこそ、知恵や知識を持ち寄り、新たな一步を大きく踏み出したいと考えています。ぜひご参加・ご支援をよろしくお願いいたします。

アジア太平洋資料センター（PARC）理事会



TPPを止める！ —多国籍企業による命の支配にNO!

2012年度のPARCは、日本のTPP交渉参加を止めるための取り組みに最大の重点を置いてきました。

2010年秋、菅首相（当時）がTPP参加の意向を発表して以降、農業分野はもちろん、医療、労働、食の安心・安全など多くの市民団体や生協、農民団体、労働組合がTPPの危険性を訴えてきました。2012年はこれらTPP反対運動が大きくなり、反対の声をさらに広げた年でもありました。こうした中で、PARCは様々なネットワークにかかわり、局面に応じて活動を行ってきました。

1. 幅広いTPP反対ネットワークの形成

—STOP TPP!! 市民アクションへの参画

2012年3月、それまで個々にTPP反対運動を行ってきた、農民団体、労働組合、NGO/NPO、生協、消費者団体など約40団体が、「**STOP TPP!!市民アクション**」(<http://stoptppaction.blogspot.jp/>)というネットワーク組織を立ち上げました。幅広い領域を含むTPPに反対していくためには、より大きなネットワークが必要という問題意識から生まれました。PARCはこの立ち上げに、「TPPに反対する人々の運動」のメンバーとして各団体への働きかけを行ない、その後もメンバー団体として参画しています。異なる分野・組織形態のメンバー団体からなるこのネットワークは、日本国内でも最大のTPP反対のプラットフォームです。4月25日に「STOP TPP!!1万人キャンドル集会」の開催（「TPPを考える国民会議」との共催）や、国際シンポジウム、院内集会など、国会議員や各種団体との連携もしつつ、数々の活動を展開し、TPP反対の陣形を広げることに寄与してきました。



2. STOP TPP!! 官邸前アクション

「STOP TPP!!市民アクション」の有志メンバー（PARCを含む）は、2012年8月、首相官邸前での直接抗議行動「**STOP TPP!!官邸前アクション**」(http://notpp.jp/TPP_kantei.html)を呼びかけました。民主党・野田首相（当時）が「TPP参加表明」をするという危機感は4月以来も続き、また「解散総選挙も間近」といわれる中で、より多くの人にTPPを周知する必要があったからです。また、毎週金曜日の首相官邸前では、「原発再稼働反対」の抗議行動が定着しており、曜日は違えど同じ場所・同じ時間帯にて行動をすることで、原発問題とも関連しながらアピールできるのではないかと考えました。当初は毎週火曜日18:00~20:00に開催、10月からは月に1度（第一火曜日）とし、2013年4月現在も継続しています。



STOP TPP!!官邸前アクションの様子。現在も毎月第一火曜日18:00~20:00に実施中。多くのPARC会員も参加してくれました

官邸前行動の最大の特徴は、毎回、全国各地から農民・漁民・医療関係者などが参加して下さることで、日常の各運動を皆で共有し、励まし合うという交流が生まれていることです。PARC 会員の方々も参加・協力をしてくださいました。もちろん TPP 問題について知らなかったという一般の方々の参加も多くあります。

3. 政府への情報公開と説明責任を求める

―市民と政府の意見交換会

TPP 協定がもつ最大の特徴であり本質は、すべてが「秘密」に行なわれるという点です。すでに 16 回を重ねてきた交渉内容はもちろん、条文テキストもいっさい公開されず、しかも協定が発効して 4 年間は議論のプロセスも非公開であることが明らかになっています。米国においては、米国通商代表部 (USTR) が任命した「貿易アドバイザー」約 600 人 (ほとんどが大企業のトップや官僚経験者、業界団体トップ等) は、条文テキストを自由に見られる一方で、国会議員ですら交渉内容を知ることができないという極端な秘密主義が貫かれています。

日本においては、2011 年 11 月、ハワイ・ホノルルでの APEC 会議にて、野田首相 (当時) は「国民的議論を経た上で日本の参加を検討する」と発言しました。しかしその後、日本政府は全国 7 か所での説明会 (共同通信社と共催。一般公開)、業界団体や各都道府県・自治体レベルでの説明会 (非公開の場合が多い) など限られた場を設定したのみで、対象となった人数は約 3000 人と、「国民的議論」を行なったとは決して言えない状況でした。

このように多くの人びとが「TPP を知らない」という状態のまま、交渉参加が進められることに懸念を抱く全国の NGO・NPO は「**政府と市民の意見交換会**」(<http://tpp-dialogue.blogspot.jp/>) を立ち上げ、2012 年 2 月、政府に対して「TPP に関する情報公開を求める要請書」を提出しました。かつて日本の ODA 政策や開発援助政策について政府に議論の場を求め、政策提言を行なってきた NGO 団体が

中心であり PARC も呼びかけ団体に加わりました。

その後、政府に対し TPP に関する対話と説明を市民に行なう場として「意見交換会」の実施を要請し、5 月・東京、6 月・大阪、12 月・名古屋の全国 3 か所を実現しました。ここには政府側として政務官や経産省・外務省・農林水産省等の各省庁の担当者が出席し、市民側の有識者や参加者からの質問に答え、議論をするという形をとりました。

しかし情報公開や説明が政府側からなされたかという点ではいまでも不十分であり、市民の声を政策に反映させるという点で大きな課題を残しました。これも、水面下で進んでいる主に米国との TPP 参加への事前交渉が完全に秘密裡で行なわれていることや、各省庁の担当者レベルには実際の交渉の動きが十分に周知されていないなど、TPP そのものの持つ秘密性と、日本政府の説明責任・情報公開に対する認識の低さが理由だと考えられます。一方、市民側にとっては、TPP に限らず、政府からの情報を引き出す力や日常的な折衝の戦略の弱さが課題と考えています。

4. 国際ネットワーク

―TPP そのものを葬り去るために

すでに TPP に参加している 11 ヶ国の市民社会の中には、TPP 反対運動が存在しています。これらの組織・個人は、交渉会合のたびにステークホルダー (利害関係者) として参加し、各国の交渉担当官や業界団体、NGO 同士で情報交換を行ない、日常的にはメーリングリストやスカイプ会議などを通じて TPP 反対の国際ネットワーク活動を形成しています。

例えば、米国ではパブリック・シチズンや EFF、KEI などの団体、ニュージーランドでは研究者のジェーン・ケルシーさん、オーストラリアのフェアトレード団体や労働組合、マレーシアのエイズ患者支援団体などそのネットワークは実に多様です。日本の参加が TPP 交渉全体に与える影響は大きいと見なされているため、2012 年度、PARC は国際ネットワークの一員として情報交換を進めてきました。



2013年3月には、シンガポールで開催された第16回 TPP 交渉会合に、PARC から内田事務局長が参加しました（日本は参加国でないため、友好団体である米国パブリック・シチズンのメンバーとして登録）。日本の参加表明が直前のこの時点で、TPP 交渉の場では「すでに日本の参加は決定事項」と非公式にささやかれていました。そうした中で、米国の交渉担当官の「日本はすでに不利益な条件での参加を了承している。TPP は例外なき関税をめざすものであり、すべての品目を交渉テーブルに乗せる。しかし日本の参加は9月が最短である」という発言を国際 NGO チームがリークしました。日本が参加表明をしていない時点で米国がこのような認識を持ち発言していることは驚きであり、私たち日本の市民を置き去りにした TPP 参加に他なりません。現地から直ちに日本の国会議員やメディアにこの情報を流し、新聞各紙で取り上げられた他、TPP 交渉全体が米国の大企業に牛耳られているという実態を伝え



2013年3月15日、TPP 参加表明の危機に際し議員会館前で行った緊急座り込み行動（STOP TPP!! 官邸前アクション主催）

る緊急院内報告会（TPP を考える国民会議主催）も行ないました。

5. 終わりに

—これからやるべきこと、できること

2012年度は、日本において TPP 反対運動が大きく広がった年であることは事実です。しかし、2013年3月、安倍首相はついに日本の TPP 参加表明を行ないました。国民に十分な説明もなく、また 2012年12月の衆議院議員選挙にて掲げた「TPP に関する6項目の公約」を自民党は破り、有権者を裏切る形での参加表明です。「ルールメイキングに参加する」「国益を守る」「農産品など主要な品目は守る」と安倍首相は述べていますが、遅れて参加する国はあらゆる面で交渉で不利な条件を課されることは明らかであり、その後4月の日米事前協議においても、日本の「完全敗北」が露呈しました。日本が参加する大義も、実質的なメリットもまったくないということが明らかになった今、PARC を含めた TPP 反対を訴えてきた運動体・市民は、さらに強く参加撤退を求めています。TPP 参加は不当であり、不正義であり、屈辱的であるという事実は変わりませんが、11ヶ国による日本の参加承認、米国との並行協議など、既成事実は着々とつくられています。このことに流されず、反対の声をあげ続けると同時に、TPP そのものを葬り去る国際連帯活動を、PARC は今後も継続していきます。



2013年3月15日、安倍首相の TPP 参加表明直後に議員会館にて開催した参加表明撤回を求める緊急記者会見（STOP TPP!! 官邸前アクション主催）



ブラック企業大賞—暴走する企業を許さない！

パワハラ、セクハラ、残業代未払い、長時間労働、派遣差別、偽装請負…。日本の労働環境はますます悪化の一途をたどっています。それらの職場はここ数年で「ブラック企業」と称され、社会的にも注目されつつあります。しかし個別事例の調査やその問題の発信・解決も簡単ではなく、ブラック企業で働く当事者は、不当な処遇を受けていても声をあげられる状況ではありません。

ブラック企業を生み出す社会・経済的な構造についての分析や提言についても不十分であるため、きわだったブラック企業の存在は一時的に取り上げられても、企業全体・働く場全体の質の向上にはなかなか結びついていません。

そこで、PARCの呼びかけで、2012年1月「ブラック企業大賞実行委員会」が立ち上がりました。実行委員会メンバーは、ジャーナリストや労働組合、NGO、弁護士など日常的に労働問題や非正規雇用問題などの事例に触れている面々であり、これらが横断的につながることにより広く深い視点でブラック企業問題をとらえ、ブラック企業を生み出す背景や社会構造の問題を広く伝え、誰もが安心して働ける環境をつくることをめざしました。



<http://blackcorpaward.blogspot.jp/>

ブラック企業には幅広い定義と解釈がありますが、「ブラック企業大賞」では次のような定義と指標に基づき2012年7月、10社をノミネートしました。

【ブラック企業とは】

①労働法やその他の法令に抵触し、またはその可能性があるグレーゾーンな条件での労働を、意図的・恣意的に従業員に強いている企業、②パワーハラスメントなどの暴力的強制を常套手段として従業員に強いる体質を持つ企業や法人（学校法人、社会福祉法人、官公庁や公営企業、医療機関なども含む）、③また環境破壊や事業所の周辺環境や地元地域社会への配慮・貢献、消費者のニーズ・アフターケアに対する考慮が薄い企業なども含まれる場合がある。

【ブラック企業を見極める指標】

長時間労働／セクハラ・パワハラ／いじめ／長時間過密労働／低賃金／コンプライアンス違反／育休・産休などの制度の不備／労組への敵対度／派遣差別／派遣依存度／残業代未払い（求人票でウソ）
※多くのブラック企業が上記の問題を複合的に持っているケースが多い

◆ブラック企業大賞 2012 各賞◆

(○印はノミネート企業)

- 【大賞】東京電力株式会社
- 【市民賞】ワタミ(株) ※ウェブ投票トップ
- 【特別賞】ウェザーニューズ
- 【ありえないで賞】「すき家」(株式会社 ゼンショー)
- 【業界賞】株式会社 フォーカスシステムズ・株式会社 富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー (富士通 SSL)
- 「SHOP99」(現ローソンスストア 100) (株式会社 九九プラス)
- 株式会社 すかいらーく
- 有限会社 陸援隊&株式会社ハーヴェスト・ホールディングス(ハーヴェストツアー)
- 株式会社 丸八真綿

※詳しい受賞理由などはウェブサイトをご覧ください

2012年7月、ノミネート企業を発表した記者会見以降、ブラック企業大賞はインターネットを中心に大変大きな反響がありました。記者会見直後には、ウェブサイトへのアクセス数が1週間で60万件にも達し、インターネットによる投票システムも取り入れたこともあり、各種掲示板やニュースサイトでも大きく取り上げられました。これは、ブラック企業の問題を正面から社会に問い、会社実名をあげて情報を発信したことが大きなインパクトを持ったためといえるでしょう。

授賞式当日もメディア取材も多くあり、授賞式が終わった後にも注目され続けています。

PARCの雑誌『オルタ』、オーディオ・ビジュアル部門との連携

ブラック企業大賞を選定する過程で得た情報や事例、その背景などをより広く社会に伝えるため、PARCのオーディオ・ビジュアル（AV）作品『ブラック企業にご用心！一就活・転職の落とし穴』としてリリースしました。監修をブラック企業大賞実

行委員会が担い、完成上映会イベントを実施するなど、広く発信することができました。また雑誌『オルタ』でも特集「社会にはびこるブラック企業」（2012年7・8月号）を組み、文字媒体としての発信も行ないました。このようにPARCの各部門との連携が実現したことは大きな成果でした（作品の詳細はAV部門・『オルタ』報告参照）。

2013年に入りブラック企業問題は、さらにマスメディアでも大きく扱われるようになりました。現実の労働の現場が、働く者にとってますますひどい状況になっていることの表れであり、またその問題解決も単純ではないことを表しているといえます。若い社員が入社後数か月で過労自死をするような状態、ブラック企業だとわかってやめることができない状態、就職活動で企業の不当な要求をのまざるをえない大学生などいずれも常軌を逸した状態です。ブラック企業大賞は、引き続きこの問題を訴え続け、一人ひとりの命や生活を守るための現実的な対処法と、社会の構造問題の分析と解決の両輪を提言していきたいと考えています。



ブラック企業大賞授賞式（2012年7月28日）にて、受賞企業を発表する実行委員（左上）。すべてのノミネート企業には事前に授賞式の「招待状」を送り、当日もノミネート企業席を設置。しかし参加した企業はゼロ（右上）。授賞式後はブラック企業の生まれる背景や構造を深く考えるためのシンポジウムも開催した（左下）。これらの中からPARCの雑誌『オルタ』での特集やAV作品『ブラック企業にご用心！』もリリース（右下）



水はみんなのものー国際水映画祭

世界の人口増大や中国・インドなどをはじめとする国ぐにの経済発展に伴い、水の需要は増大をたどる一途です。一方で、人類が使用できる淡水の量は限られているため、国家間・地域間での水をめぐる争いも生じており、「これからは石油でなく『水戦争』の時代」ともいわれています。

さらにこうした水不足とも重なりながら、アジア・アフリカなどの国では水道事業の民営化が推し進められ、水道料金の値上げや水道設備利用可能時間の減少など、その弊害が貧困層に直撃する状況にあります。ペットボトルの水に代表される水の商品化も世界中に広がっています。公共財であるはずの水が、一部の多国籍大企業によって私有化され、その弊害はもっとも貧しい層の人たちの暮らしを直撃しているという構造は、いまま解決されていません。

こうした問題をより多くの市民に発信し、ともに問題を考えるために、PARCは2011年12月3日・4日の2日間、「国際水映画祭2011」を他団体とともに開催しました。2012年度も2011年度に引き続き、「国際水映画祭」を開催しました。

2012年度は1日だけの開催となりましたが、約200名もの参加者を得て水から見える世界・私たちの暮らしとのかかわりについて考えました。2012年度は特に、福島第一原発事故後に深刻化する海・川・魚への放射能汚染について深めるシンポジウムを開催したことが大きな特徴です。

また2012年6月に亡くなった水俣の医師・原田正純さんを追悼するという意味と、「水俣」と「福島」に通じる国家・企業の無責任と被害の構造を議論するため、原田さんが生前にご出演されたドキュメンタリー番組の上映も急ぎよ決めました。

【プログラム】

雨さえもーボリビアの熱い一日

(2010年/スペイン・フランス・メキシコ/99分)

◆作品解説 堀内葵さん(NPO法人AMネット理事)

クルードーアマゾンの原油流出パニック

(2009年/米国/100分)

◆作品解説 千代勇一さん(上智大学イベロアメリカ研究所準所員)

今日はよき日(2011年/インドネシア/23分)

川を継ぐ者(2010年/インド/23分)

◆作品解説 木口由香さん(NPO法人メコン・ウォッチ)

未来への診断書ー水俣病と原田正純の50年

(2010年/熊本県民テレビ/55分)

◆作品解説 実川悠太さん(水俣フォーラム事務局長)

【特別シンポジウム】

水俣と福島

一水・海・魚の放射能汚染とどう向き合うか

パネリスト：高岡滋さん(神経内科リハビリテーション協立クリニック)

花岡和佳男さん(グリーンピース・ジャパン海洋生態系問題担当)

コーディネーター：細川弘明さん(PARC代表理事)

★日時：2012年9月1日(土)

★会場：国際連合大学

■主催：国際水映画祭実行委員会

NPO法人 アジア太平洋資料センター(PARC) /
NPO法人 メコン・ウォッチ / 国際有機農業映画祭
運営委員会

■後援：国際連合大学(UNU)

■協力：有限会社アップリンク/ラテン・ビート映画祭



PARC 自由学校

— 出合い・つながり・活動が生まれる場として

1. 企画

2012 年度は 27 クラスを企画し、そのうち 25 クラスが成立、受講生数は 367 人でした。成立した講座数は昨年より増えましたが、受講生数は減少となりました。募集を開始してから申込の数が伸び悩み、成立が危ぶまれるクラスが多くありましたが、募集の締切を延長したことにより、25 クラスが成立となりました。しかし定員の半数に満たないクラスが多くあり、運営面での課題を残しました。

ここ数年の傾向として、PARC の理念や主な活動が反映される「世界の学校」、「社会の学校」のクラスの受講生の獲得に苦戦しており、2012 年度も世界



の学校 2 クラスが不成立となりました。また、全 12 ~14 回、受講料 30,000 ~40,000 円というこれまでの自由学校講座のパッケージに対して受講生からは、「受講料が高い」、「回数が多い」といった声が多くあがっています。一方で、

全 6~8 回程度で、20,000 円代のクラス（「東京を歩く」）や、現場訪問や実際に物づくり・場づくりを体験するクラス（「手仕事とサバイバル術入門」、「コミュニティ・カフェをつくろう!」、「東京で農業!」）には人が集まっています。

今後 PARC の活動と受講生の様々な要望をふまえて、企画や枠組みを組み立てる必要があります。2013 年度講座は回数や金額設定を大幅に見直し、これまでの受講生だけでなく、より幅広い層の人びとに受講してもらえるような企画・枠組みづくりに取

り組みました。来年度は受講生から講座企画について意見を聞く機会を増やし、そこで得たご意見を企画づくりに反映していきたいと考えています。

2. 運営

クラスの受講生同士の交流を深めるために、例年のようにクラス後の交流会やメーリングリストの利用をしてきました。しかし毎回交流会に参加するのが一部の受講生だけになるクラスや、メーリングリストが事務局からの一方的な発信になる傾向もあり、多様なクラス・受講生に応じて、情報発信や交流の方法を工夫していく必要があります。毎年 3 月に開催している自由学校まつりはクラスが終了した 1 月頃から準備をはじめ、受講生が横断的に参加し、主体的に企画・実行する場となりました。



毎年 3 月に行なう「自由学校まつり」。さまざまなクラスの受講生が横断的に、実行委員会をつくって企画から実施まで中心になります

クラス時間内の運営では、講師のお話や講義の後の受講生との議論が白熱して長引いたために終了時間が 15 分以上遅れてしまうというケースが何度かありました。受講生からは、「終了時間になったら講義を終えて欲しい」、「延長してでも質問や議論の時

間が欲しい」といった様々なご意見がありました。クラスや交流会での時間配分については、担当者が常に考えておくべきことであり、クラスの内容や各回の講師・受講生の状況に応じて、きめ細かい対応が必要です。



毎年大人気の「東京で農業！」クラス。畑作業の後はみんなでランチや交流を楽しみます

2012年度は、各クラスでの出来事や取り組むべき課題、事務局内で気になることなど、スタッフ全員が定期的集まり話し合うことで、事務局や自由学校をより良い場にしていく取り組みを、「コミュニティ・カフェ」クラス講師の協力のもと実施してきました。各クラスの担当者にしかわからないような個別の問題についてスタッフ全員で考え、何でも話せる場をつくることによって通常の会議では出てこない意見を出し合うことによって、これまで見えてこなかった各担当者の思いや運営上の課題に気づくことができました。



「生きることは表現すること—アーティストと学ぶ、アートの歴史と創作のワークショップ」クラス

3. 宣伝・広報

2012年度講座の広報は、例年同様に全クラスの詳細を掲載したパンフレットと、「環境・暮らしの学校」が中心のリーフレットを、ボランティアや受講生の協力を得ながら店舗やイベント会場、講演会などで配布・設置を行ないました。またイベントや講演会の内容に応じてクラス別のチラシを作成して配布しました。インターネット上の掲示板、ツイッターでの宣伝も行ないました。

2012年度から新たに始めた取り組みの一つが、新たに立ち上げたフェイスブックの自由学校ページの広報です。クラスの紹介や自由学校での日々の出来事、イベント・ツアーの宣伝などを行ないました。しかしツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアを広報ツールとしてまだ十分に活用できておらず、受講生の拡大や自由学校の認知度を上げていくうえで、有効に利用していくための戦略づくりが今後の課題です。ネット上での広報だけでなく、雑誌、マスメディアへの広報も十分にできていないので、ターゲットを絞って効果的に宣伝していく必要があります。また「オルタ」での自由学校講座の紹介や PARC の新作ビデオを使っでの自由学校企画など、PARC の部門ごとの連携を強化する取り組みを事務局内で検討していくことで、PARC の活動をより幅広い層にアピールしていく枠組みをつくりたいと考えています。



いいね! 自由学校の Facebook ページ

<http://www.facebook.com/parcfs>

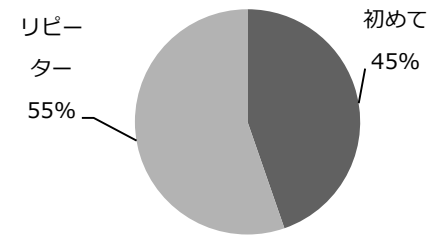
◆2012 年度自由学校受講生分析

| NO | クラス名 | 申込者 |
|------------------|----------------------------------|------------|
| ことばの学校 | | |
| 1 | キムの Active English | 13 |
| 2 | ジェンスの英語で発信! | 16 |
| 3 | 世界のニュースから国際情勢を読み解こう | 11 |
| 4 | 武藤一羊の英文精読 | 14 |
| 5 | 五感で学ぶ! アイヌ民族のことばと文化 | 12 |
| 6 | はじめてのケチュア語—アンデス先住民族の歴史と文化を学ぶ | 13 |
| 世界の学校 | | |
| 7 | グローバル・デモクラシーの挑戦 | 15 |
| 8 | T P P では生きられない!?—私たちの暮らしは私たちがつくる | 3 |
| 9 | アラブ・カルチャー: 抵抗とオルタナティブ | 3 |
| 10 | ドキュメンタリー映画で観る 現代中国の光と影 | 14 |
| 社会の学校 | | |
| 11 | 本気で脱原発! | 12 |
| 12 | 地域で創る。脱成長な生き方・働き方 | 15 |
| 13 | もうマスコミは信じない—メディアを選ぶ・創る | 9 |
| 14 | 生きる—表現者たちが紡ぐ哲学 | 19 |
| 15 | どうする日本の食と農 | 12 |
| 連続ゼミ | | |
| 16 | もうだまされない! 知識ゼロからの経済学入門 | 21 |
| 17 | 東京を歩く—あらためて考える「防災と防衛」 | 17 |
| 18 | 映像を使って授業をつくらう—脱原発・貧困・環境をテーマに | 9 |
| 環境・暮らしの学校 | | |
| 19 | 暮らしの達人に学ぶ! 手仕事とサバイバル術入門 | 24 |
| 20 | 文化としてのビールを味わう | 15 |
| 21 | 島の知恵と暮らしにまなぶ—いま問い直す豊かさの意味 | 5 |
| 22 | コミュニティ・カフェをつくらう! | 22 |
| 23 | 東京で農業! | 42 |
| 表現の学校 | | |
| 24 | 生きることは表現すること—アーティストと学ぶ、アートの | 18 |
| 25 | 「旧暦」は「未来暦」—古くて新しい「歳時記」暮らしのススメ | 11 |
| お昼の学校 | | |
| A | 阿満利庵と読む「親鸞」 | 5 |
| B | コミュニティ・カフェをつくらう! | 8 |
| 特別 | 活動家一丁あがり 労働と貧困: 26名 食と農で世直し: 11名 | 37 |
| 計 | | 367 |

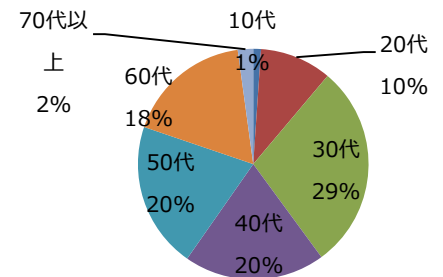
※合計には不成立クラスは含まれていません。

※合計には特別講座「活動家一丁あがり」受講生は含まれていません。

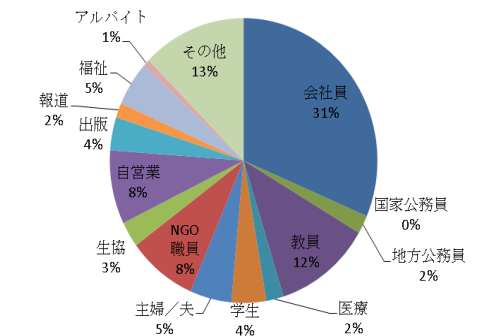
◆受講歴



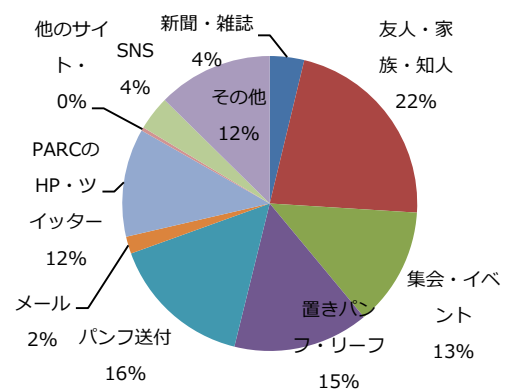
◆年代



◆職業



◆受講のきっかけ



オーディオ・ビジュアル (AV)

—学校、地域、職場で、さらに幅広い「学びの場」で活用いただくために

1 全体を振り返って

2012 年度、オーディオ・ビジュアル (AV) 部門は、『有機農業で生きる—わたしたちの選択』と『ブラック企業にご用心！—就活・転職の落とし穴』の2つのオリジナル作品を制作しました。オリジナル作品を年間2本制作するという目標を達成することができましたが、翻訳作品制作と旧作品のDVD化は進められず来年度の課題として残りました。

2 2012 年度に制作した作品とその内容

有機農業で生きる—わたしたちの選択

DVD/36分/本体8,000円+税/監修 大江正章 (PARC 共同代表・コムズ代表) /監督 岩崎充利



有機農業をテーマに、3.11 後の社会のあり方、生き方を見出す作品。有機農業の第一人者、埼玉県・小川町の霜里農場の金子美登さんへのインタビューや、福島県の有機農業者へのインタビューを中心に、農薬・化学肥料に依存しない本来の農業がこれからの社会に必要であること、原発を生む社会構造に対するオルタナティブとしての「有機農業」を提案する作品です。有機農業をめぐる若者の思いや、有機農業を伝える教育現場、各地で賑わうオーガニック・ファーマーズ・マーケットなど、有機農業を支え発展させる最新の情報も盛り込みました。作品監督は、ご自身も小川町で有機農業を営む岩崎充利さんをお願いしました。

ブラック企業にご用心！—就活・転職の落とし穴

DVD/36分/本体6,000円+税/監督 土屋トカチ/監修 ブラック企業大賞実行委員会



近年、社会問題となっている「ブラック企業」に注目し、企業の持つ華やかなイメージの裏に潜む劣悪な労働環境の実態やその構造に迫る作品。法律を無視して労働者を搾取るブラック企業の引き起こした事件を紹介し、主に大学生や

高校生、転職を考える若い世代へ、「ブラック企業から逃れる方法」と、ブラック企業をなくすための取り組みについて伝えられるよう心がけました。ブラック企業の実態をわかりやすく紹介するため、ドラマ仕立てにした部分もあります。2012 年に始まった「ブラック企業大賞実行委員会」との連携で完成した作品です。監督は、派遣労働者のたたかいを描いたドキュメンタリー作品『フツの仕事をしたい』で数々の賞を受賞された土屋トカチさんをお願いしました。

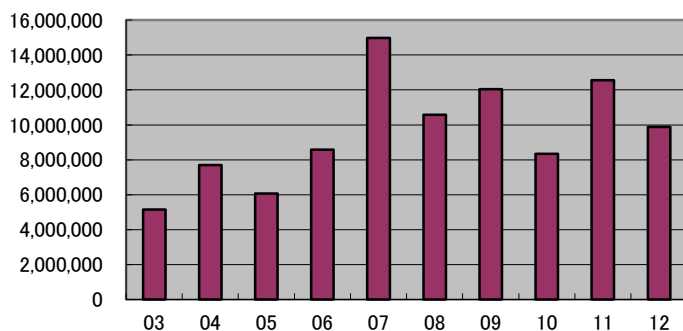
3 販売・宣伝 (別紙資料参照)

2012 年度に最も多く売り上げた作品は、『お米が食べられなくなる日』でした (リリースから1年間で個別販売数が108本)。また昨年度に制作した『原発、ほんまかいな?』および「原発を問う」セットは2013 年度も引き続き好調な売れ行きで、原発事故後の関心の高さと問題の深刻さを改めて実感した年でした。

2012 年11月に完成した新作『有機農業で生きる』は、販売がやや伸び悩んでいたため、有機農業関係の諸団体に対してご紹介したり、食や農をテーマとしたイベントに数多く出店し、その場で上映やトークを実施し宣伝につなげるという努力をしてきました。有機農業そのものへの関心は高まっているため、通常の大学・高校などの学校現場で活用いただく以外に、「有機農業映画祭」への出品や、映画館「アップリンク」(渋谷) や「ザムザ」(阿佐ヶ谷) での上映イベントなど、さらに多くの方に PARC の AV 作品を知っていただくための普及に努めました。アップリンクでの上映&トークイベントは70名近くで満席、有機農業をテーマにしたイベントで集客が見込めることを確認しました。

『ブラック企業にご用心!』は、やはり各所でのイベント企画や、全国の大学の就職課へのDMなど個別の販売戦略を立てています。ネット上で話題になっていることから、予告編(3分程度)を作成し、SNSを通じて情報発信も行ないました。

◆2003～2012年度のAV売上推移



◆2012年度売上ランキング

単品ベスト5

| | 作品名 (制作年) | 販売本数 |
|---|--------------------|------|
| 1 | お米が食べられなくなる日(2012) | 108 |
| 2 | 原発、ほんまかいな?(2011) | 85 |
| 3 | 有機農業で生きる(2012) | 61 |
| 4 | 世界をめぐる電子ごみ(2011) | 39 |
| 5 | ハード・レイン | 34 |

セットベスト5

| | セット名 | 販売セット数 |
|---|-------------|--------|
| 1 | 原発を問う | 25 |
| 2 | 新作 DVD | 10 |
| 3 | 女性の視点から見る開発 | 5 |
| 4 | 日本の現実 | 5 |
| 5 | 農業の現実と未来 | 4 |

●個別注文数

| | 計 | 直販・ 一般価格 | 直販・ 図書館価格 | 書店・ 一般価格 | 書店・ 図書館価格 | 会員 一般価格 | 会員 図書館価格 |
|-----|-----|-------------|--------------|-------------|--------------|------------|-------------|
| 単品 | 681 | 311 | 89 | 53 | 216 | 10 | 2 |
| セット | 74 | 42 | 5 | 5 | 19 | 3 | 0 |
| 計 | 755 | 353 | 94 | 58 | 235 | 13 | 2 |
| | | 一般計 447 | | 書店計 293 | | 会員計 15 | |

◆注文者属性

| | 総注文 | 書店のみ | |
|----|-------------|------|-----|
| 1 | 大学教員 | 167 | 48 |
| 2 | 大学図書館・研究室 | 151 | 112 |
| 3 | 高校教員 | 9 | 0 |
| 4 | 高校図書館 | 5 | 2 |
| 5 | 一般図書館 | 29 | 28 |
| 6 | 個人 | 163 | 3 |
| 7 | 企業 | 12 | 0 |
| 8 | 行政 | 3 | 0 |
| 9 | 大学生協 | 33 | 3 |
| 10 | NPO、市民団体、組合 | 40 | 5 |
| 11 | 中学教員 | 1 | 0 |
| 12 | 中学図書館 | 0 | 0 |
| 13 | 小学校教員 | 0 | 0 |
| 14 | 小学校図書館 | 0 | 0 |
| 15 | 不明教員 | 2 | 0 |
| 16 | 報道・プロダクション | 0 | 0 |
| 17 | 研究者・学生 | 0 | 0 |
| 18 | 生協 | 13 | 3 |
| 19 | 協会・宗教関係 | 3 | 0 |
| 20 | 財団・社団法人 | 3 | 1 |
| 21 | 医療関係 | 0 | 0 |
| 22 | 政党、政治家 | 0 | 0 |
| 0 | 不明 | 121 | 87 |
| | 総計 | | 755 |

雑誌『オルタ』

会員同士をつなぎ、PARC の活動が見える雑誌へとリニューアル

2012年度は『オルタ』のリニューアルのあり方を検討した年でした。かねてより PARC の財政・編集スタッフの業務上の負担が指摘されていましたが、会員アンケートや「会員の集い」でのご意見をいただきながら、2013 年度 4 月のリニューアルをめざし新しい『オルタ』の準備を進めてきました。

1. リニューアル

2008 年 7-8 月号以降、『オルタ』は隔月刊雑誌として発行してきましたが、2013 年 5 月号より月刊誌としてリニューアルすることを決定しました。これまでに、『オルタ』が「PARC 会員の皆さまの興味・関心から外れつつある」、あるいは「難解な論考が多い」などといったご指摘を一部の会員・読者の方からいただいていた。また、財政的にこれまでと同じような形では継続が困難であること、そして編集に携わるスタッフの負担が大ききことなどもあり、昨年度の監査報告での指摘もふまえ、大幅なリニューアルを行うこととしました。

具体的には、会員同士、会員と理事・スタッフの「距離を近づける」ような特集テーマ・連載を盛り込むこと、発行頻度を上げて時宜にかなった特集、あるいは単発での記事を掲載できるようにすること、そして 1 号 48 ページを 20 ページ程度に削減し毎月の発行にすることを主な方針としてリニューアルの準備を進めてきました。リニューアル第 1 号は 2013 年 4 月 25 日の発行を予定しています。

2. 制作・販売

年度前半は 2011 年度に行ったリニューアル後の体制で安定して発行を続ける制作体制が維持できました。しかし、年度後半からは編集制作にフルタイムで関われるスタッフが不在の状況になり、非常に不安定な製作体制になってしまいました。そのこ

とにより、一部の号で発行に遅れが生じることもあり、会員・購読者の皆様にご心配・ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

リニューアル後の『オルタ』では、積極的に会員の方にも連載の執筆・編集にかかわっていただき、参加型の紙面づくりもめざしています。

3. 2012 年度の特集

- 東ティモールからの希望の風—独立 10 年間の国づくりを振り返る (2012 年 5-6 月号)
- 社会にはびこるブラック企業 (2012 年 7-8 月号)
- グリーンエコノミーの正体を暴く (2012 年 9-10 月号)
- 核と先住民族—被ばくの世紀の証言者たち (2012 年 11-12 月号)
- 社会運動と政治—デモクラシーは何処に? (2013 年 1-2 月号)
- 世界のまなざし—政権交代、脱原発、TPP、アジアの平和 (2013 年 3-4 月号)



<現代社会のあり方にオルタナティブな視点を>

法を無視して卑劣な労働者搾取を行う、通称「ブラック企業」の問題を取り上げた特集・特別記事（特集「社会にはびこるブラック企業」など）や、2012年12月の衆議院選挙を受けて市民活動と政治の関係性を再考する特集（特集「社会運動と政治—デモクラシーは何処に？」）、あるいは世界から見た日本社会の課題・論点を浮き彫りにする特集（特集「世界のまなざし」）など、日本社会が現在内包する問題・課題に光をあてる特集を企画しました。

<国際的に視野を広げる>

2012年5月は東ティモールの主権復帰から10年でした。これまでのPARCと姉妹団体パルシクの活動を振り返る意味も込めて特集を企画しました（特集「東ティモールからの希望の風—独立10年間の国づくりを振り返る」）。

1992年のリオサミットから20年あたる2012年6月、リオで環境開発サミットが開催されました。その際に主要テーマとなった「グリーンエコノミー」の言葉の裏に隠された多国籍企業の狙いや新自由主義的な思想は国内メディアでは取り上げられることが非常に少ないため、PARCならではの視点から「グリーンエコノミー」の懸念を取り上げました（特集「グリーンエコノミーの正体を暴く」）。このように国際的に注目される事象について、深い分析や提言を行なう特集づくりに努めました。

また、2012年11-12月号特集「核と先住民—被ばくの世紀の証言者たち」では、国内で盛り上がる脱原発運動に呼応しつつ、核開発の裏で長らく闇に置かれてきた先住民の被害について、歴史的な考察も含めて特集を組みました。このことによって原発・核の問題を国内的な議論だけにせず、地球規模・歴史的視野を持って考えるきっかけを提供することを意識しました。

ウェブ・ソーシャルメディア（SNS）を使った総合的な発信

2012年度は、ツイッターやFacebook、インターネット放送のUST（ユーストリーム）などのソーシャルメディア（SNS）がさらに社会に普及し、集会やデモなど社会運動の場面でも日常的に活用されるようになりました。

PARCは2011年からツイッターを開始し、日々の活動や告知、緊急行動の呼びかけなどに活用しています。フォロワー数も徐々に増え2012年3月末現在で約4000人となっています。

またツイッターと比較してより緊密なネットワーク内でのコミュニケーションを楽しむFacebookに関しては、2012年度に主にPARC自由学校のクラスごとにページをつくり、クラスの様子を写真つきで報告して受講生同士・受講生とスタッフ間の関係づくりを深めるツールとして力を入れました。

さらに集会やデモ、緊急行動などの際にはインターネットの生中継放送USTで配信するなど、直接参加できない方や遠方の方にもPARCの諸活動が発信できるように心がけてきました。

今後、これらソーシャルメディアはますます社会運動の多くの場面で有効なツールとして活用されることとなりますが、紙媒体や顔と顔を合わせる場とうまく組み合わせ、PARCの理念や各部門活動、会員や自由学校受講へのお誘いなど、総合的な発信のための戦略が課題となっています。

会員の皆様も、ぜひPARCの各種アカウント・ページをご覧ください、「フォロー」や「いいね！」をしていただきますよう、お願いいたします。



**SNSで
PARCの活動をフォロー！**

【ツイッターアカウント】

★PARC⇒ @parc-jp

★PARC自由学校⇒@PARCFS

【Facebook】 ★PARC自由学校⇒

<http://www.facebook.com/parcfs>

組織

■会員

2013年3月31日現在、433人の会員のみなさまがPARCの活動を支えてくださっています。

2012年度は雑誌『オルタ』の大幅リニューアル計画もあったことから、9月には京都・東京で、「PARC会員の集い」を開催し、小規模ではありましたが、活発な意見交換が行われました。会員の集いではオーディオ・ビジュアル作品の上映も行ない、普段なかなか見ていただく機会のない作品のご紹介も実現しました。

『オルタ』リニューアルに向けては、8月から9月にかけて無作為抽出した会員名簿から『オルタ』の購読状況や感想、今後の内容への期待など、電話アンケートを行いました。この機会に、通常はお話することも少ない地方の会員のみなさまのご活躍ぶりや、『オルタ』がどのように読まれているか、生の声を聞くことができました。お礼を申し上げるとともに、引き続きの活動へのご参加・ご支援をお願いいたします。

■ボランティア・インターン

PARCの活動は大勢のボランティアの方々のご協力によって支えられています。現在のボランティア登録者（累計）は112名にのぼります。

『オルタ』やAV広報チラシ、自由学校パンフレットの発送作業や、イベント・集会の運営、翻訳、資料整理、広報活動、インターネットへの書込み、データ打込、広報物の制作、ファイリング、データベースづくりなどその内容は様々です。

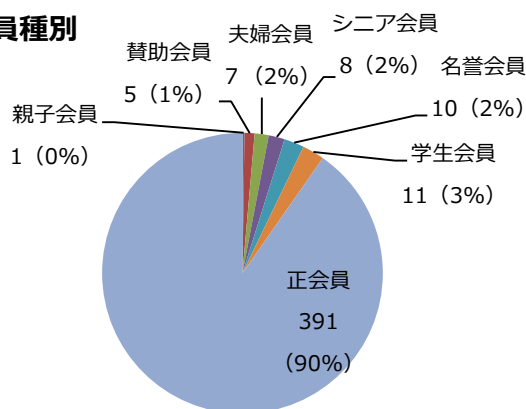
2013年度の自由学校パンフレット送付ボランティアには学生を中心に、のべ60名の方が参加してくださいました。ボランティアに参加する経緯としては、インターネットのボランティア関連掲示板や、twitter、facebook経由で参加される方が多く、ボランティア参加が初めて、PARCの名前を聞くのも初めて、という方がほとんどです。平日の開催で、1

日、短時間から参加ができるため気軽に参加していただいています。2012年度は、これらの方々にはPARCの活動について、作業をしながら、あるいはお茶の時間にお伝えするよう心がけました。

しかし継続的にボランティア参加してくださる方はまだ少なく、続けてきていただけるような仕組みや呼びかけ方法などが課題となっています。具体的には、週末のイベント参加への呼びかけや、仕事帰りに立ち寄れる夜間の短時間作業日をつくるなどの方法を計画しています。短期インターンは学生を中心に受け入れました。半年以上の長期インターンは希望者がいなかったため受け入れていません。

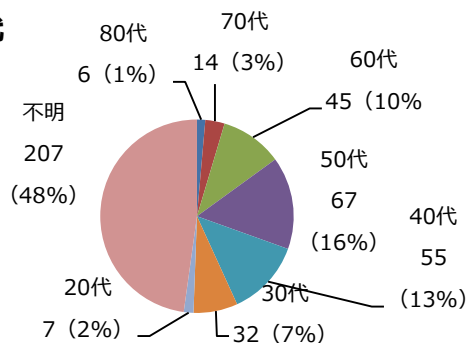
会員のみなさまもぜひ、お気軽にボランティアにご参加ください。

■会員種別

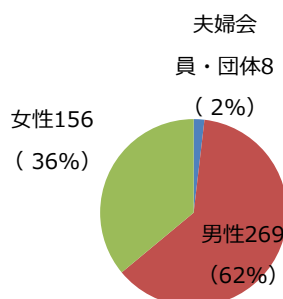


計433名 (2013年3月末)

■年代



■性別



2012年度 活動カレンダー

| | 「講演会・イベント」 | 主催・共催 |
|---------|--|---|
| 4/21-22 | アースディ | 出展 |
| 4/25 | みんなの力で TPP 参加を止めよう！ STOP TPP!! 1万人キャンドル集会 | 主催：STOP！！TPP 市民アクション |
| 5/16 | 活動家一丁あがり！ 第4期スタート記念イベント「活動家ってなんだ！？-社会にモノ言うはじめての一步を踏み出そう！」 | 主催 |
| 5/18 | 東ティモール独立10年記念シンポジウム 「東ティモールからの希望の風一人びとによる復興の道のりをふりかえる」 | 共催：PARCIC・PARC |
| 5/19 | 「グリーンエコノミーに対話と調和を」シンポジウム | 主催：A SEED JAPAN 共催：JACES オックスファム・ジャパン・エコ・リーグ・CSO ネットワーク・PARC |
| 5/22 | 市民と政府の意見交換会～TPPを考えよう～ | 市民と政府の TPP 意見交換会・東京実行委員会として参画 |
| 6/1-6/6 | TPP 映画祭「IMAGINE after TPP ～未来について、映画を通して一緒に考えよう、わたしたちの暮らし～TPP 映画祭」 | アップリンク・PARC 共同企画 |
| 6/21 | STOP TPP!! 市民アクション 緊急行動 | 主催：STOP TPP!! 市民アクション 実行委員会として参画 |
| 7/24 | 映画「おにぎり」特別上映会 in 阿佐ヶ谷 同時上映 PARC ビデオ「お米が食べられなくなる日」 | 主催：NPO 法人食農いのちサポート広場 協力：PARC |
| 7/28 | ブラック企業大賞 2012 授賞式&シンポジウム | ブラック企業大賞企画委員会として参画 |
| 8/9 | 映画「おにぎり」特別上映会 in 阿佐ヶ谷 同時上映 PARC ビデオ「お米が食べられなくなる日」 | 主催：NPO 法人食農いのちサポート広場 協力：PARC |
| 9/1 | 国際水映画祭 2012 | 水映画祭実行委員として参画 |
| 9/1 | 国際水映画祭 2012・特別シンポジウム『水俣と福島』 水・海・魚の放射能汚染とどう向き合うか | 水映画祭実行委員として参画 |
| 9/18 | STOP TPP! 官邸前アクション&OCCUPY モンサント! | STOP TPP! 官邸前アクション実行委員 として参画 |
| 9/2 | 浸透性農薬に関する IUCN 東京フォーラム | 主催：IUCN 浸透性農薬タスクフォース&一般 社団法人アクト・ビヨンド・トラスト。 後援団体として参加。 |
| 10/6-7 | グローバルフェスタ | 出展 |
| 10/8 | 討論集会・シリアが私たちに問うもの | 主催：ミーダーン・サダーカ主催 協力団体として参加 |
| 10/9 | 【緊急トークライブ】中国・反日デモにどう向き合うか!?!—領土・国家・ナショナリズムと市民社会— | 大竹財団、PARC 共催 |
| 10/13 | PARC 会員の集い 東京 | 主催 |
| 10/14 | 小出裕章さん講演会 in かわさき「小さきもののために ～福島原発事故から考える～今、わたしたちに何ができるのか」 | 賛同団体として参加 |
| 10/21 | PARC 会員の集い 京都 | 主催 |
| 10/31 | 普天間基地の全ゲートを封鎖！！オスプレイ強行配備に揺れる沖縄・高江～普天間報告会 | 主催 |
| 11/8 | 土と平和の祭典 2012 | 出店 |
| 12/2 | PARC 臨時会員総会&忘年会 | 主催 |

| | | |
|---------|---|-------------------------------|
| 12/3 | 「PARC 自由学校」STOP TPP! 高坂勝さん特別トークライブ★ TPPみたいなインチキカラクリシステムからドロップアウトしようぜ 下から目線でダウンシフトだ! | 主催 |
| 12/16 | 国際有機農業映画祭 2012 | 実行委員会に参加 |
| 3/9 | つながろうフクシマ! さようなら原発大集会 | 出展 |
| 3/10-11 | Peace on earth | 出展 |
| 3/17 | お蔵フェスタ | 出展 |
| 3/24 | 2012 年度自由学校修了イベント「自由学校まつり」 | 出展 |
| | STOP TPP!! 官邸前アクション (8/21 から毎週開催。 10月からは毎週第一火曜日開催) | STOP TPP!! 官邸前アクション実行委員会として参画 |
| | 賛同・呼びかけ | |
| | 福島原発と子どもの権利に関する NGO レポート | 呼びかけ人: セーブザチルドレン |
| 9月 | 大間原発の建設断念を求める声明文 | 団体賛同 |
| 9/28 | 「領土問題」の悪循環を止めよう! ——日本の市民のアピール—— 声明文 | 団体賛同 |
| 11月 | TPP に関する「国民的議論」についての要請 | 呼びかけ団体として参画 |
| 3/13 | 日本は TPP 交渉に参加しても、交渉内容に何の影響も与えられない! TPP 参加表明を絶対に許さない! 緊急声明文 | 呼びかけ団体 |

訃報 越田清和さん、村井吉敬さん

2012 年度も終わりに近づいた頃、大切なお二人の訃報が続きました。

1993 年から 2003 年の 10 年、PARC 事務局スタッフとして、国際協力部長や事務局長を務められた越田清和さんは、食道がんの手術後、転移がわかり 2012 年末に再入院、2 月 5 日に永眠されました。

90 年代以降、故・鶴見良行さんらとアジアを歩き、人びとの目線で調査を進められてきた村井吉敬さんは、すい臓がんにて 3 月 23 日、永眠されました。村井さんは ODA 批判や東ティモール支援、100 円ショップ調査など実に多くの PARC の活動に関わられ、90 年代の代表理事も務められました。

PARC にとって大切なお二人の相次ぐ訃報に、理事・スタッフは悲しみの中で迎えた春でした。同じ気持ちをお持ちの会員の方々も多いことと思います。

お二人のご冥福を改めてお祈りすると同時に、それぞれのご遺志を PARC の活動の中で実現できるよう、理事・スタッフともども努力していきたいと思う次第です。

最後に、お二人に心からお礼を申し上げます。越田清和さん、村井吉敬さん、本当にありがとうございました。

アジア太平洋資料センター (PARC)

- 代表理事 大江正章／佐久間智子／細川弘明
- 理事 内田聖子／大塚昭代／菅野芳秀／藤井敦史／穂坂光彦／松本 悟／宮内泰介／湯浅 誠
- 監事 市村忠文／中村尚司
- 事務局 内田聖子／大和田清香／高橋真理／高田裕道／田中 滋／安川直祐

(2013 年 3 月 31 日現在)



特定非営利活動法人

Pacific Asia Resource Center

アジア太平洋資料センター

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

TEL.03-5209-3455 FAX.03-5209-3453

<http://www.parc-jp.org/> E-mail office@parc-jp.org